



# 北陸地域の概要（2020年10月調査）

地域開発調査部研究員 吉田聡子

## 景気の状態判断 各種 Go To 事業が奏功しDI値は2か月連続で改善の方向

依然として景気の水準は低いものの、3か月前と現状を比較する現状判断指数(DI)は、前月から+8.5ポイントの58.9となった。「10月からGo To Travel キャンペーンの地域共通クーポンが発行され、東京発着も対象になり、個人客を中心に例年並みの集客ができてきている(観光型旅館)」、「関東圏の人々の北陸への旅行や出張が日に日に増えている。新型コロナウイルス禍で閑散としていた駅周辺に人が戻り始めており、週末は旅行者や地元の人々ににぎわいを取り戻し始めている(一般レストラン)」と引き続き旅行や飲食関連が好調である。「ただし、依然として団体客やグループ客、インバウンド客はほとんど動きがなく、個人客頼みの状況(テーマパーク)」、「人の動きは少しずつ多くなっているようだが、まだにぎわっていないようである。外出等は目的を決めての動きに限定されているようで、慎重な様子が続いている(乗用車販売店)」と限定的な回復であるとの指摘も相次いでいる。

## 景気の先行き判断 年末商戦への期待で先行きDI値も改善する一方で不安材料も

3か月先を占う先行き判断指数(DI)は+4.9ポイントの54.5となった。「これから年末に向かい繁忙期に入る。カニなどの高額商品も既に人気となっている。何とか今までのマイナスを少しでも取り戻したい(一般小売店[鮮魚])」、「前年比ではマイナスが続く可能性が高いが、クリスマスや正月等の季節需要や商戦に期待する。また、新型コロナウイルスによる単籠り需要など新たな商品の需要が生まれる可能性があり、現状よりは経済に活気が出ると思う(金融業)」と前向きな声があがる一方、「現在、消費者はかなりいろいろなプレミアム付振興券を使って支払いをしている。消費者の財布の中の振興券が少なくなり、新型コロナウイルスの第3波が懸念される年末の景気が心配である(美容室)」、「各企業の決算発表で赤字が続出しており、ボーナスの支給に影響が出ると見込んでいる。この影響を受ける年末年始商戦の見通しは更に厳しくなると考える(百貨店)」と厳しい声も出ている。

図1 景気の状態指数(DI)の推移[季節調整値]

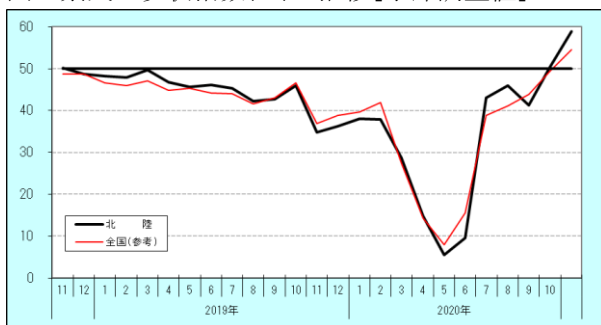
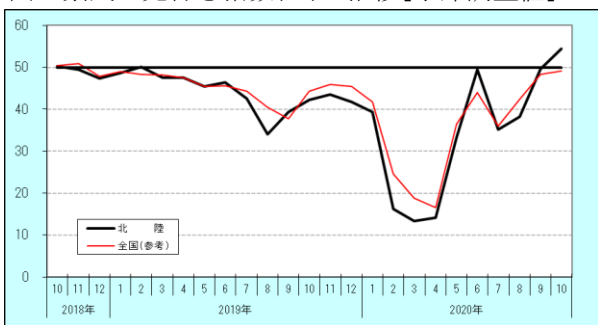


図2 景気の先行き指数(DI)の推移[季節調整値]



### ●10月のアンケート内容

調査期間：2020年10月25～31日

調査対象：合計100名(うち回答者92名)

- (内訳)
- ・家計動向関連
  - ・企業動向関連
  - ・雇用関連

### ●景気の状態指数(DI)の算出方法

景気の状態や先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これを各回答区分の構成比(%)に乗じて算出している。(良い=+1、やや良い=+0.75、変わらない=+0.5、やや悪い=+0.25、悪い=0) DIが50の場合には、景気は「横ばい」、50を超えると「改善」、50を下回ると「悪化」を示す。

内閣府「景気ウォッチャー調査」は景気の動きを敏感に観察できる立場の2050人を対象に全国12地域で毎月実施され、北陸地域では当研究所が100名を対象に調査している。本誌の北陸地域の概要は当研究所の責任で取りまとめたものである。なお、調査内容は内閣府のホームページで毎月第6営業日に公表されている。